

映像デザイン演習Ⅳ

No.	到達目標	評価基準					評価方法			
		S (極めて高い水準で達成している)	A (高い水準で達成している)	B (標準的な水準で達成している)	C (最低限の水準で達成している)	D (未達成である) 1つでもあてはまれば不合格	レポート 20%	企画書 25%	最終成果物 35%	発表 20%
1	実空間における映像の活用について必然性をもった企画を提案することができる (C-2)	調査をもとにした説得力および独自性のある必然性をもった企画内容であり、企画書としてわかりやすく構成されている。	調査をもとにした説得力があり必然性をもった企画内容であり、企画書としてわかりやすく構成されている。	調査をもとにした説得力があり必然性をもった企画内容である。	調査をもとにした必然性をもつ企画内容である。	成果物を提出しない。または条件を満たしていない。		○	○	○
2	提案した企画を映像技術を用いて適切な表現で実装することができる (C-2、D)	提案した企画を適切かつ魅力的な表現で実装でき、高い完成度を有している。	提案した企画を適切かつ魅力的な表現で実装できている。	提案した企画を適切な表現で実装できている。	提案した企画を実装できている。	成果物を提出しない。または条件を満たしていない。		○	○	
3	社会における先行事例を調査し、課題を発見することができる (D)	先行事例を調査し、複数の課題を提示しており、自身の企画に十分反映できている。	先行事例を調査し、複数の課題を提示しており、自身の企画に一部反映できている。	先行事例を調査し、複数の課題を提示している。	先行事例を調査し、1つの課題を提示している。	成果物を提出しない。または条件を満たしていない。	○	○		